

■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	障害者支援施設 北九州あゆみの里	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5		がんばろう 
2 地球温暖化対策の推進	2.2 /5		がんばろう 
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 
		がんばろう 3 点未満 	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 2.8	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.5	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3
解体時のリサイクル促進に配慮している。		高寿命な材料を使用し、建物の耐久性に配慮している。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 2.3	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.5	LR2/ 1.1 節水	スコア 1
高効率機器を採用し、敷地内のエネルギー使用量の削減に貢献している。		節水器具を採用している。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
室外機を屋上に分散配置することで、排気温度を低く抑える工夫をしている。		建物周囲に緑地を計画し、室外環境の向上に貢献している。	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
身体障害者のための福祉施設であり、施設利用者は1階、2階の入所で日常生活を行う。 食事スペースを中心に入所室が囲むプランとし、廊下の先に日中活動室や浴室、エレベーターホールを配置した平面計画としている。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	0.8
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	0.84
		外構緑化指数	17 %
		建物緑化指数	0 %

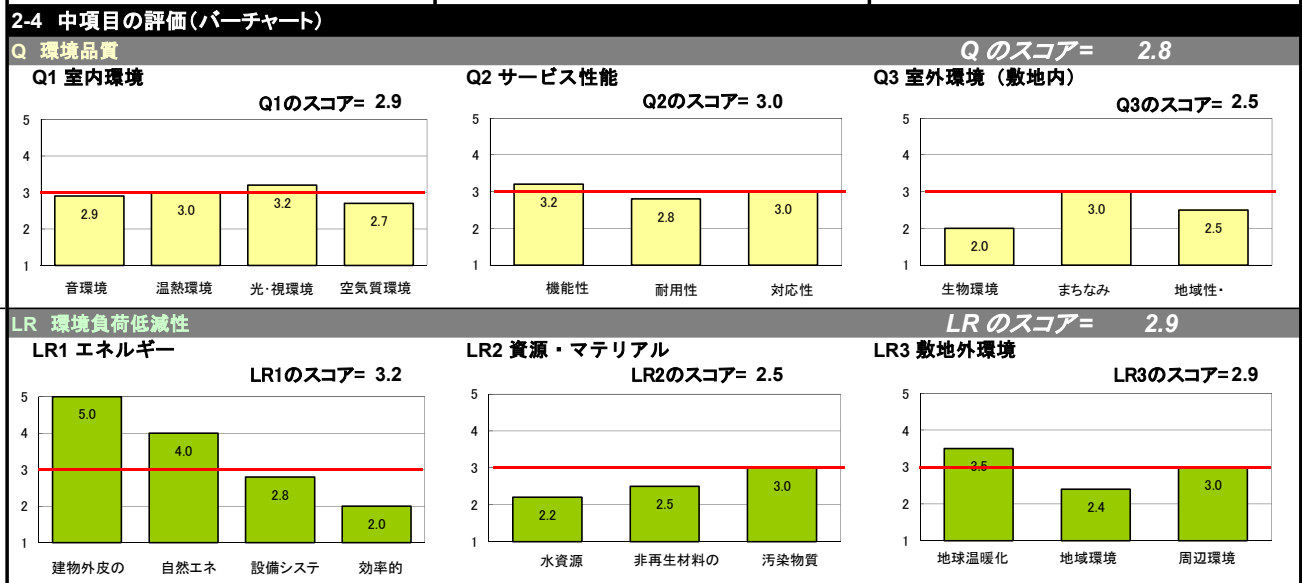
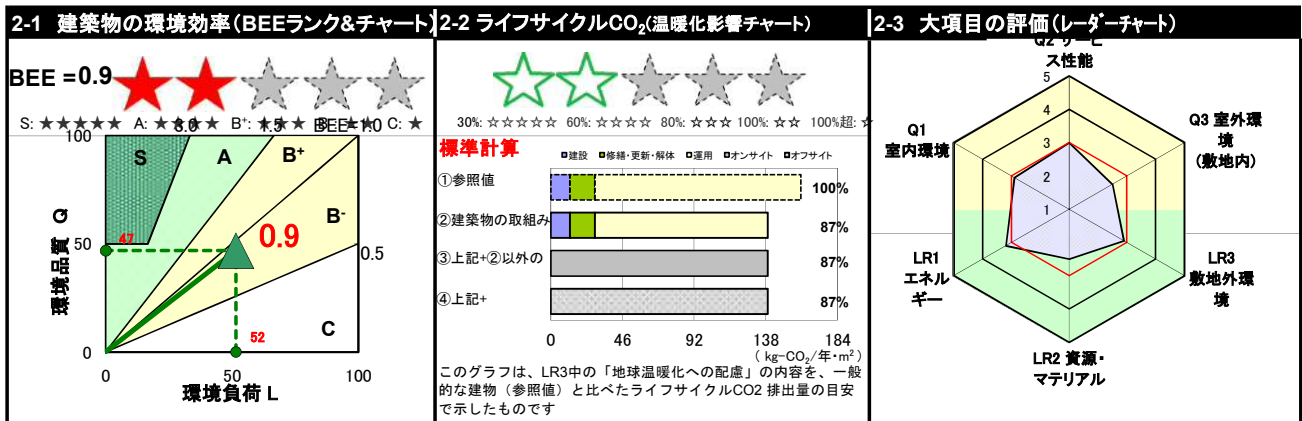
: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	障害者支援施設 北九州あゆみの里	階数		
建設地	福岡県北九州市門司区大字畑1979-1・1980-1・1981-3・1981-4・1984-2・2002-1・2002-4	構造		
用途地域	第一種住居地域・第一種中高層住居専用地域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	病院	評価の段階		
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日		
敷地面積	6,629 m ²	作成者	田筆友一	
建築面積	1,594 m ²	確認日		
延床面積	2,802 m ²	確認者		
			林義尚	



3 設計上の配慮事項			その他
総合 身体障害者のための福祉施設であり、施設利用者は1階、2階の入所室で日常生活を行う。食事スペースを中心に入所室が囲むプランとし、廊下の先に日中活動室や浴室、エレベーターホールを配置した平面計画としている。 建物は施設利用者の身体能力や周辺環境を考慮してボリュームを低層に抑え、スタッフ控室や会議室は3階に集約して			
Q1 室内環境 施設利用者の居住施設となることから、入所室は西面を除く三方の外壁沿いに配置し、自然採光と自然通風を採り入れることができる。 バルコニーがあるため、日射遮蔽を効果的に行っている。	Q2 サービス性能 高寿命な材料を使用し、建物の耐久性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 建物周囲に緑地を計画し、室外環境の向上に貢献している。	
LR1 エネルギー 高効率機器を採用し、敷地内のエネルギー使用量の削減に貢献している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具を一部採用している。	LR3 敷地外環境 室外機を屋上に分散配置することで、排気温度を低く抑える工夫をしている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
障害者支援施設 北九州あゆみの里

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.9
1 音環境		3.0	0.15	2.8	1.00	2.9
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音		3.0	0.40	2.6	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.2	0.25	3.3	1.00	3.2
3.1 昼光利用		3.8	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	病室部分においてレベル5(昼光率=3.6%)	3.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備	共用部にトップライトを設置	5.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		2.7	0.25	2.7	1.00	2.7
4.1 発生源対策		3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		2.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理		3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視			-		-	
2 喫煙の制御		3.0	1.00		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		2.8	0.40	4.4	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	全病室が個室かつ10㎡以上		-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応			-		-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	主要諸室天井高さ2.5m以上		-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-		-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		2.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30		-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		2.2	0.20		-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
	1 階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m] = 0.80	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用		トップライトの設置による自然採光	4.0	0.10		-	4.0
3 設備システムの高効率化			2.8	0.50		-	2.8
4 効率的運用			2.0	0.20		-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制		1.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-		-	
	4.1 モニタリング			-		-	
	4.2 運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
	1.1 節水		1.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60		-	2.5
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	
	1 消火剤		-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
	3 冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率が一般的な建物と同等	3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音		3.0	0.33		-	
	2 振動		3.0	0.33		-	
	3 悪臭		3.0	0.33		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制			-		-	
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	